

## 北海道支部選出 役員立候補届

2012年 2月 2日

ふりがな	井や 友 友かし	男	
氏名	宮田 隆史 印		
生年月日	S.H. 26年 7月 4日 60歳		
住所	〒048-1511 Tel 0136(58)3225 北海道 宝田郡ニセコ町字ニセコ183-8		
資格	スキー:( )ステージI・( )ステージII・( )ステージIII スノーボード:( )レベルI・( )レベルII		
所属校	ニセコアンヌプリスキースクール		
抱負	別紙添付		
SIAに 於ける 経歴	第一回のSIAでモニタリ10年連続輩出される。その間、 2度のインターナショナルモード、2度の世界選手権へ出場。 理事として25年間、総務、広報、教育、学校を歴任。 最後の9年間は教育委員、学校委員を務めます。		

## (別紙)

学校部長として任期中に、これからSIA、スキー学校、会員のあり方について劇的に考えさせられる出来事がありました。もちろん東日本大震災と原発事故です。それまでは公益社団への移行認可が大きな目標でしたが、根底には優れた外部役員の方々のご尽力により、慎重かつ時節を見据えた申請によって認可は時間の問題でもありました。しかし未曾有の震災直後は全く経験したことのない有事となり、会員や学校の被害調査、お見舞い、目前に迫った安比フェスティバルをどうするか募金活動は、などの対応に追われました。そんな状況の中で当初はフェスティバル実施の意見が多数を占めていたことはあまり知られていません。震災直後は執行部の中でも温度差があり、それぞれの立場での意見はもつともなことばかりでしたが、危機感や意識のズレのようなものを感じたのも事実でした。震災直後、真っ先に全面中止の意見をしたのは学校部でした。予定通り開催あるいは縮小開催が多数意見の中、時間とともに交通網遮断や余震による停電などで通常開催は不可能に近いことが知れる事となったのはご承知のとおりです。全面中止が決まってからも、受験生のためとはいえ実技試験を月山で実施のアナウンスもありました。結果として交通網が回復しなかったため中止となり、1年間実技受験を待たれる結果となりました。このとき学校部は、すでに学科合格済みでII、IIIの実技受験を予定していた会員へは、超特例措置として実技免除で合格を意見しましたが、整合性がとれないと否決されました。毎年5月は継続や新規の学校が公認料の支払いとともに申請書を提出する月ですが、震災の影響による売り上げ減少を考慮した公認料減額についても、東北や福島の学校に限ってだとか、一律なら3万円、5万円等と複数意見に分かれました。専務から被害額や減収額調査を命じられ実施した結果、地域を問わず開校形態や集客方法の違いによって大きく減収した学校が多くあることが分かり、学校部が提案していた10万円一律減額が実施されることになりました。次に実施されるべきは例え时限であっても会員の年会費減額、2回目の公認料減額等かと思います。その他、新たなる公益社団法人として出発した新執行部に課せられる課題は山積かと思います。最後にSIAの高齢化と次世代についてですが、私もいつの間にか還暦を迎えました。先輩の校長多数がまだ元気で現役を続けられていますが、余計なお世話で云わせていただきますと、多くの方々が一代でスキー学校を終えられる可能性があります。身内であれば長年のスタッフであれ次世代を見据えたスキー学校の存続は、SIAにとって組織そのものの存亡にかかわることもあります。一方で世代が変わる・終了することで新たな世代のスキー学校が生まれる可能性もあります。ご自分の周辺を見渡したみてください。世代交代がスムーズにいきそうですか？ 今回の立候補に当たり、私は数人の40代の方に立候補をお勧めしました。既に関西や志賀高原では40~50代の方が理事を務めており、現学校部でも副部長は40代、委員にも40代をあえて指名して経験を積んでいただいている。部の運営だけを考えれば気心の知れた経験の長い世代や、実績優先で多少?がつくような方が委員として指名を受けたりしています。次世代の奮起と経験者の育成意識がガッチャリかみ合わなくては自分にもあなたにも明るいスキー界は開けてこないかもしれません。

平成24年2月2日 宮田 隆史